2007 年度

| 科目名 | 対象学科・学年 | 担当者 |
|---|---|---|
| 芸能鑑賞法Ⅱ | 文学部日文１回生 | 高橋　圭一 |

授業テーマ

まず、講談という芸能を知ること。そしてその楽しさに一端に触れること。

授業の概要と目標

講談（古くは講釈）は江戸時代初めに誕生した、落語とよく似たスタイルの話芸です。長い歴史を持ち、明治・大正・昭和前期に至るまで、庶民に愛好されて、落語に劣らない人気を博していました。今は落語に圧されている講談人気を再燃させたいと念願しています。この講義で講談の魅力の一端でも伝えられたら、と思っています。受講者が寄席に行きたくなるような講義、というのが目標です。

評価方法

出席と講義終了後のレポートによって評価します。

| テキスト | 著者 | 出版社 |
|---|---|---|
| 『おもしろ講談ばなし』『講談落語今昔譚』、『講談・伝統の話芸』、講談研究者吉沢英明氏の著作あれこれ。 | 藤田洋、関根黙庵<br>有竹修二 | |

| 参考書 | 著者 | 出版社 |
|---|---|---|
| 毎回プリントを用意します。 | | |

授業スケジュール・内容

『』はすべて講談（落語も含む）の演目です。ただし、時間の都合などで変更することもあります。

原則として、前半は講義で後半は講談鑑賞という形式で行います。ビデオ（昨年、一昨年の口演の録画）ＤＶＤ（僅少です）、ＣＤ、テープ等。

授業の中で、本職の上方講談師を招いて、生の講談を聴いてもらう予定です。昨年は旭堂南海師に二度来ていただきました。一席たっぷり講談を読んでもらった（落語は話す、浄瑠璃は語る、講談は読むと言います）後で、色々お話も伺うつもりです。日程は、現在の所未定です。

１、講談と落語は姉妹芸です。まずは、落語の『くっしゃみ講釈』（桂枝雀）を観てみましょう。
２、いよいよ講談を一席、一昨年の南海師の口演『荒大名の茶の湯～大谷刑部』。素晴らしい出来でした。
３、講談の始まりを少々、よくわからないので「少々」です。　講談の根本、軍談を一席。五代目馬琴『三方ケ原合戦』。
４、　続き。　女流講談も聴いてみましょう。神田紅『春日局』。
５、江戸中期の講談師、馬場文耕と森川馬谷。　御家騒動。六代目神田伯竜『河童又助』。
６、　続き。　五代目馬琴『伊達政宗の堪忍袋』。
７、江戸後期の名人たち。そのエピソードなど。　女流、神田すみれ『白隠禅師』。
８、　続き。　六代目馬琴『村越茂助誉れの使者』。
９、明治の名人松林伯圓（ショウリンハクエン）。　明治物、四代目邑井貞吉『正直車夫』。
10、　続き。　義士伝を二席。三代目神田山陽と三代目神田松鯉。
11、近代文学者と講談。鴎外・漱石・荷風等。　暑い季節に怪談を一席。六代目一龍斎貞水『村井長庵』。
12、　続き。　一昨年の南海師の口演『木村長門守』。
13、上方の名人二代目旭堂南陵の生涯。　二代目南陵『太閤記』より『矢矧橋』。
14・15、何回目になるかは上記の通り未定ですが、講談師来演。